

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	堺市立もず園			
○保護者評価実施期間	令和6年2月6日 ～ 令和6年3月1日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	188名	(回答者数)	119名
○従業者評価実施期間	令和6年8月26日 ～ 令和6年9月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	45名	(回答者数)	45名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な専門職種による連携、もず診療所及び相談支援室もずの併設による、こどもと家族への多面的な支援	療育参加・給食介助・バス添乗など日常的に多職種でこどもの支援を行っている。こどもや家族への支援内容について、日常的に多職種で情報交換を行い、臨機応変に多職種によるケース検討会議等を行っている。診療所や相談支援室と密に連携し、医療面、関連機関との調整や福祉サービス面等においても、こどもと家族が安心して過ごせるよう支援している。	地域支援においても、多職種によるチームでの支援ができる体制を整備する。
2	保護者支援・保護者交流への幅広い取り組み	単独登園クラスは毎月親子保育を行い、こどもの状況を保護者と共有している。個人懇談や家庭訪問等に加え、保護者支援プログラムの年間計画を立案し多職種や外部講師による保護者学習会を実施している。クラス懇談・参観等の行事・保護者交流会等を通じて、保護者同士で情報交換や悩みの共有等ができるよう交流の機会を設けている。	保護者への情報発信を拡充できるよう、オンライン研修の充実やICTの更なる活用に取り組む。 きょうだい児支援の一環として、きょうだい児の交流の場を検討する。
3	年齢・発達課題・生活環境に応じた多様なクラス編成	毎日登園クラス以外に、低年齢の親子クラス、並行通園クラス、療育支援未経験の親子への園庭開放・遊びや相談の場を運営している。これらのクラス等の担当職員が、毎日登園クラスの運営にも日常的に関わっている。療育の入口にいる親子から地域移行の親子まで、見通しを持った療育、手厚い支援を行っている。	法人内外での実習や研修の機会を拡大し、個々の職員の知識・資質の向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園の取り組みについて、保護者や外部への情報発信の頻度・手段が不十分である。	外部への発信に精通した職員がおらず、日々の業務と並行して取り組むため拡充しにくい。	R6年度から導入するICTシステムやSNSの活用を図る。 担当可能な職員を拡げ、スキルアップを図る。
2	地域住民の方々との交流が不十分である。	療育支援未経験のこどもと家族の方には遊びの提供や相談の場を設けているが、感染症対策等もあり地域住民の方々を行事等に招待することに難しさを感じている。	絵本の読み聞かせなど、こどもたちが好む活動を行っている 地域のボランティアの方々に療育に参加して頂く。 こどもたちが使用する教材等の作成などにご協力いただく機会を設けていく。 地域の自治会の方や隣のマンションの住民の方に施設見学会等の実施を検討する。
3	丁寧な支援を行うために必要な準備や会議、資料作成等の時間を確保することが難しく、残業につながることも多い。	兼務量の多さや人員確保の難しさ、職員の勤務時間の多様化等が要因となっている。	様々な媒体を活用しながら、人員確保により一層努める。 業務の見直しや効率化を図り、残業の削減、有給休暇の取得促進に取り組む。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 堺市立もず園

公表日 R6年 10月 30日

利用児童数

96

回収数

75

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	74		0	0		
	2	職員の人数や専門性は適切であるか	66		5	3	・もっと職員数を増やしてほしい ・言語聴覚士、作業療法士を増員し、リハビリの機会を増やしてほしい。	・アルバイト保育士、児童指導員を中心に職員募集をするも人材確保が難しい状況があるが、今後も人材確保に向けて努力する。 ・キャンセル等でリハビリの空枠が出た際、保護者とご都合が合えば、受けていただけるよう連絡している。
	3	園の生活の流れは、子どもたちにとって分かりやすいか	73		1	1		
	4	園では子どもの状況に応じて、バリアフリー化やコミュニケーション等への配慮が適切になされているか	73		0	1		
	5	園は子どもたちが安全に心地よく過ごせる環境になっているか	74		1	0	・園に行くときエレベーターや廊下は寒く感じました。 ・沢山、鍵もついていて安心です	・園児は、安全のため室内では裸足で過ごしているが、体調などご不安がある時は、相談を受け対応する。
	6	遊具やおもちゃは子どもたちの発達や興味に合わせたものになっているか	69		3	2	・自由あそびの時間のおもちゃの種類を増やしてほしい。 ・おもちゃや絵本はだいが古い型だったり痛んでいるものが多いように思う。 ・もう少し年齢が上の子ども向けのおもちゃも欲しいです。	・遊具や玩具については、園児の発達課題を考慮し準備している。安全に配慮しながら、引き続き手作りのもの等も取り入れながら用意していく。
適切 な 支 援 の 提 供	7	個別支援計画は、子どもの願いや保護者の思いが適切に反映されているか	74		0	1		
	8	個別支援計画には目標に対する具体的な支援内容が設定されているか	73		0	2		
	9	日々の療育は個別支援計画に沿った支援が行われているか	71		2	2	・様々な子どもがいて、集団にあわせる と少し対応が難しいのではと感じた。	・集団療育の中でもひとりひとりが楽しめるように引き続き工夫し保育内容を考えていく。
	10	日々の療育プログラムは固定化しないよう工夫されているか	72		1	2	・外あそびの時間(日数)が少ない。 ・季節の行事などはとてもありがたいですが、通常保育の内容は固定化の傾向がある。	・設定保育以外にも、朝や午後の自由遊びにできるだけ戸外遊びを経験できるようにする。暑さ指数や個々の体調等に配慮する。 ・同じあそびを積み重ねる中でのお子さんの姿の変化や成長を大切にしている。クラス集団に合ったより良い保育内容を引き続き検討していく。
	11	職員は子どもの状況に応じて分かりやすくコミュニケーションをとっているか	75		0	0		
	12	保育園やこども園、幼稚園等との交流や地域の子どもたちと活動する機会があるか	11		40	23	・特に交流は必要ないと感じる。 ・医療ケアもあるので、特に求めているない。 ・コロナ禍以降は特になくなったかと。以前はあったのかもわからない。 ・コロナの影響もあったと思うが今年は交流の機会はありませんでした。 ・コロナの影響もあり、残念だけど仕方ないと思った。 ・個人的にはなくても良い。	・コロナ禍もあり、感染予防のため交流を控えていたが、令和6年度より交流を再開する。地域の園との保育交流や関わりを引き続き行っていく。
	13	園の運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	69		5	1	・今年度に限ってはあまりあてはまらないと感じました。	・利用開始にあたり重要事項説明を実施しているが、今回のご意見も踏まえてより丁寧な説明を心がけていく。
	14	個別支援計画の説明はわかりやすかったか	74		0	1		

保護者への説明等	15	保護者に対して研修や学習会など保護者向けプログラムが行われているか	72		2	1	・とてもありがたいです。 ・兄弟の都合で参加を断念する時がありました。	・家族支援プログラムとして、学習会を実施している。ご希望があれば、資料配布等をしている。
	16	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	75		0	0	・家庭連絡帳に細かくたくさん様子をよく書いてもらえています。忙しい中ありがとうございます。	
	17	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	75		0	0		
	18	保護者会活動への理解や協力など保護者同士の連携が支援されているか	61		11	3		
	19	保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているか	74		1	0		
	20	相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	73		1	1	・臨機応変にすぐ対応してくれて安心できました。	
	21	保護者との意思の疎通や情報伝達において、分かりやすく伝えるための配慮がなされているか	73		0	2		
	22	保護者に対して、定期的にお便りや掲示物を通じて活動概要や行事予定を伝えているか	73		0	2		
	23	自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	64		2	8	・自己評価が何のことかわからない。	・ホームページに自己評価を公表する際は、お便り等で掲載をお知らせしていく。
非常時等の対応	24	個人情報の取扱いに十分注意されているか	70		0	5		
	25	緊急時の対応、防犯対策、感染症への対応等について、保護者に周知・説明されているか。	71		3	0	・災害時の対応や災害の障害児がいる場合の地域の対応等の情報が欲しい。	・R6年度保護者学習会で研修を予定している。不安があれば、情報提供やご相談に応じていく。
満足度	26	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他の必要な訓練が行われているか	69		1	5	・参加した日は避難していません。	・親子登園日にも避難訓練を実施する機会を検討する。
	27	子どもは園に通うことを楽しみにしているか	74		1	0	・行き渋りがみられる。うれしそうな時と行きたくない日もある。	・お子さんの様子を丁寧に聞き取り、お子さんと保護者の方の不安がやわらぎ、安心して通えるよう、共に考えていく。
	28	園の活動や取り組みに満足しているか	73		1	1		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 堺市立もず園（並行通園クラス）

公表日 R6年 10月 30日

利用児童数

92

回収数

44

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	43		0	1	・身体を動かすゲームはスペースがせまく感じるがあった。	・保育室で実施するため、せまさを感じられることもあったと思われる。安全に配慮しながら取り組んでいく。
	2	職員の人数や専門性は適切であるか	44		0	0		
	3	園の生活の流れは、子どもたちにとって分かりやすいか	44		0	0		
	4	園では子どもの状況に応じて、バイアフリー化やコミュニケーション等への配慮が適切になされているか	44		0	0		
	5	園は子どもたちが安全に心地よく過ごせる環境になっているか	44		0	0		
	6	遊具やおもちゃは子どもたちの発達や興味に合わせたものになっているか	44		0	0	・1年の間におもちゃを全体的に変える等の工夫が必要と感じた。 ・基本的に子どもたちが関心高く取り組めるものを用意してくれている。	・興味やあそびが広がるよう、様々な玩具を経験できるように検討する。同じ玩具を継続的に用意することで、遊び方の変化や成長を確認することも大切にしていく。
適切 な 支 援 の 提 供	7	個別支援計画は、子どもの願いや保護者の思いが適切に反映されているか	43		1	0		
	8	個別支援計画には目標に対する具体的な支援内容が設定されているか	44		0	0		
	9	日々の療育は個別支援計画に沿った支援が行われているか	42		1	0		
	10	日々の療育プログラムは固定化しないよう工夫されているか	42		2	0	・子どもたちが安心できる範囲の固定化で良いと思います。子どもたちが見通しを持ちやすい。	
	11	職員は子どもの状況に応じて分かりやすくコミュニケーションをとっているか	44		0	0	・その時の気持ちに寄りそって頂いていた様に思います。	
	12	在籍園での生活を把握し支援につなげているか	38		5	1	・所属園にもず園担任の訪問があったが、1度なのでつながったか実感しにくい。	・在籍園訪問でお子さんの様子をみて並行通園の療育の参考にしたり、必要な時に連携している。
	13	並行通園での経験が家庭での生活にいかされたか	38		5	1	・ハサミを少し使える様になりました。	
	14	並行通園が在籍園での支援にいかされたと思うか	35		6	3	・人の話を最後まできく事ができるようになり、園でもほめられた。 ・少人数のため、多人数での園の生活とは別の感じがする。	・保護者の方が一緒に通う安心感の中で、少人数で取り組むことで指示の理解がしやすく主体的に取り組むことや共感を丁寧にすることが自信につながる。並行通園での経験を集団でも発揮していけるよう工夫や配慮を連携していく。
	15	園の運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	43		0	1		
	16	個別支援計画の説明はわかりやすかったか	44		0	0		
	17	保護者に対して研修や学習会など保護者向けプログラムが行われているか	43		1	0	・サポートブックや就学相談についてはとても助かりました。	
	18	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	43		0	0		

保護者への説明等	19	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	41		1	1		
	20	保護者同士が交流する機会や保護者同士のつながりへの支援がなされているか	39		3	1		
	21	保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているか	43		0	0	・療育時間が短時間のため相談の時間がとりにくい。 ・療育中は、ゆっくり話す機会が持ちにくいこともあると思うが、療育日以外にも電話相談や面談実施も可能なため相談を丁寧に受けていく。	
	22	相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	43		0	0		
	23	保護者との意思の疎通や情報伝達において、分かりやすく伝えるための配慮がなされているか	40		3	0	・紙ベースだけでなくメールなどの手段でやりとりできると便利かなと思いました。	・ICT導入等検討していけるよう検討する。
	24	保護者に対して、定期的にお便りや掲示物を通じて活動概要や行事予定を伝えているか	41		0	2		
	25	自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	34		4	4		
	26	個人情報の取扱いに十分注意されているか	40		1	1		
非常時等の対応	27	緊急時の対応、防犯対策、感染症への対応等について、保護者に周知・説明されているか。	38		1	3		
	28	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他の必要な訓練が行われているか	28		5	9	・避難経路等説明はあったが実際の訓練はなかった。 ・並行通園クラスでは避難訓練がなかった。	・避難経路のご説明にとどまっているが、避難訓練の実施を検討する。
満足度	29	子どもは園に通うことを楽しみにしているか	40		2	1	・毎回とても楽しみにしていてもっとやりたいと言っていた。	
	30	園の活動や取り組みに満足しているか	43		0	0	・たのしそうに取り組む姿をみられるのはよかった。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
堺市立もず園		R 6 年 1 0 月 3 0 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	43	2	集団特性や活動内容によって保育室・集会室・遊戯室等の各部屋や廊下等のスペースを活用している。保育室内は、生活・遊び・休息など多様な使用ができる空間作りを工夫している。	体調管理や休息、障害特性等への個別配慮が必要なことも多く、面談等での個室利用と重なり調整に苦慮する時がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	29	15	保育士・児童指導員を指定基準以上に配置し、社会福祉士・各種セラピスト・看護師・管理栄養士等、専門資格を有する職員を複数配置している。医療的ケア等の配慮が必要な子どもにはマンツーマン対応できるよう体制を調整している。職員体制が厳しい場合は各部署からの支援を調整している。	様々な媒体で募集をかけても欠員補充が難しい職種がある。兼務職員も多く、各部門からの支援等体制調整が日常的に必要である。職員配置は堺市との協議の上で決まっているが、より丁寧な支援や職員の業務量を考慮すると、工夫が必要である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	44	1	保育室など各部屋の床材は肢体不自由児はセラピーマット、知的障害児はフローリングなど障害特性に応じて配慮している。必要に応じてパーテーションがある保育室の使用やロッカーの配置で保育室内の構造化を図る等、わかりやすく安全な環境に配慮している。写真・イラスト・文字など視覚支援ツールを活用し見通しや活動の理解を促している。こどもが自分の机・椅子・ロッカー・靴箱等がわかりやすいようこどもごとにマークを決めている。バリアフリーへの対応、障害を持つ保護者や外国籍の保護者への対応も丁寧に行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	44	1	日々、清掃や消毒等の感染症対策に努めている。随時、安全点検を実施し修繕も行っている。集団特性によって保育室等の各部屋や廊下等のスペースでこどもが指をつめたり身体をぶつけたりする可能性がある場所には緩衝材等を使用し安全対策に努めている。集団の障害特性・年齢・発達課題等に配慮した空間づくりを行っている。	こども用トイレに空調設備がない為、夏は暑く冬は寒い。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	45	0	集団では食事が進まない、気持ちを落ち着かせる必要がある、体調管理や休息が必要等、個々のこどもの状況に応じて、個室やカムダウンルーム等を使用している。こどもたちの状況や好む活動によって、複数の部屋や廊下、中庭等を利用している。	
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	41	2	業務目標の設定及び人事評価を実施している。ヒヤリハットや事故報告、苦情・要望報告等は共有し、迅速に対応するとともに、必要に応じて課題に対する研修も行っている。業務に関する事項は、各種会議で検討や意見の聴取の場がある。	職員数が多く全員の参画には課題があり、取り組み方法に工夫が必要である。今後の事業団の方向性等、大きな目標についてはより周知徹底や共有する為の工夫が必要である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	45	0	無記名での利用者アンケートを実施し、集計結果を法人のホームページ等で公表している。また、面談や電話等で話しにくい場合に利用できるようホームページ上、センター内にご意見箱を設置している。毎年、保護者会と懇談会を実施し、意見・要望を直接伺っている。意見・要望・検討事項は主任会議・職員会議・各職種会議等で共有・検討し、業務改善につなげている。	

業 務 改 善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	42	3	人事評価の面談で上司に相談や意見等を伝える機会を設けている。職員会議、各職種会議、職員アンケート等でも意見等の把握を行っている。ハラスメント・産業医面談等、各種相談窓口を設けている。出された相談や意見等は、内容によっては主任会議・施設部会議・園長所長会等で共有や対応の検討を図り業務改善につなげている。	意見等を吸い上げるアンケートが実施されない業務もある。システムとしては整えてきているが、より一層、職員の意見等が公平に発信できる場や意見等を発信しやすい環境作り等の工夫が必要である。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	44	0	定期的に第三者評価を受審し、評価結果を事業団ホームページ等で公表している。また、評価結果や課題に対する対応を職員に周知し、業務改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	45	0	園内に研修部が設置されており、基本的な年間研修計画を立案・把握・管理している。外部講師を招いての事例検討会や専門的講義、多職種による園内研修を実施している。動画視聴による研修も実施しており、各職員の業務の状況や勤務時間に合わせて視聴できるよう工夫している。外部研修の参加も業務調整を行いながら実施しており、知識や資質の向上の機会を確保している。各種研修案内を掲示・回覧し、自主的な研修参加も推奨している。	43
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	43	1	保育・リハビリにおいて個別支援計画を作成し個人懇談にて保護者と内容確認や見直しを行っている。業務標準マニュアルを事業団ホームページにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	45	0	適切なアセスメント・モニタリングを実施しており、個々のこどもと保護者のニーズに沿った支援計画を作成している。日々の保護者とのやりとりや事前アンケート、懇談等を通じて保護者のニーズを丁寧に聞き取り、計画作成に向けたアセスメント会議を実施している。診断や発達相談の結果等も踏まえ、計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	44	1	モニタリングから支援計画作成会議において、各こどもの支援に関わる職員が情報共有や支援内容の検討を行っている。児童発達支援管理責任者とクラス集団に関わる職員間で、情報共有や会議等の時間の確保が難しいが、日々の職員体制やバス添乗業務を調整しながら実施している。	兼務職員の多さや業務量増加の中で、会議等の時間が制限されるため効率化等の工夫が必要である。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	45	0	クラス会議で、支援計画の共有と支援内容の確認を行っている。個別のケースファイルにて管理しており、こどもに関わる職員が確認できるようにしている。	短時間勤務の短期契約職員や担任を持たないフリーの保育士等が、情報共有しやすくなるよう工夫が必要である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	39	4	毎日登園クラスでは年1回、その他のクラスは必要に応じて発達相談を行っている。発達相談では、標準化されたツールとして新版K式発達検査2020を使用している。発達検査や発達相談の情報を関係職員で共有している。担任を中心にこどもに関わる多職種で日々の観察を行い情報共有や必要な対応を検討している。	標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントが具体的に何を示すのかわからない職員が数名おり、再度周知が必要である。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	43	2	令和6年度より支援計画に必要な項目を適切に設定し、具体的な支援内容を設定している。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	45	0	必要に応じてセラピストなど多職種とも連携しながら担任や担当者間で検討し、保育者会議（月案会議）でクラス間の意見交換も行いながら月ごとの活動プログラムを立案している。1学期末・年度末に多職種も参加しながら内容の振り返りを行い、今後の保育内容や配慮点などをチームで検討している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	45	0	運動や手指活動など、積み重ねを大切に取り組む活動もあるが、こどもたちの状況に合わせて工夫を行っている。月案会議・学期のまとめ・年間のまとめ等での討議や多職種の意見を参考にしながら、活動内容の充実を図っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	44	1	集団療育を基本にしながら個々のこどもの状況に合わせた支援を実施している。集団活動における課題と取り組みと個別活動における課題と取り組みの視点を持ち、こどもの状況に応じた支援計画を作成している。活動内容によっては、個別の空間・環境を工夫したり、小人数で取り組むなど集団の大きさを工夫している。必要に応じ、併設の診療所にて各種の個別セラピーが実施されている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	44	1	支援開始前の打ち合わせは必ず実施し、関わる職員間で統一した認識のもとでのケース対応や連携した支援が出来るようにしている。登園バスの添乗など他の業務で参加できない職員もいるが、連絡ボードや口頭で要点を伝えることができるよう工夫している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	41	4	降園バスの添乗や短時間勤務の職員、兼務の職員も多く、全員での実施は難しい場合が多いが、参加できる職員で短時間でも振り返りやこどもの状況の共有を行っている。当日もしくは翌日から対応が必要な事項に関しては当日に共有・対応を行っている。それ以外の事項については、定期会議等で共有することもある。	日々の業務量や兼務の為、振り返りの時間の確保や時間調整が難しい場合が多い。業務の状況によっては、振り返りを行う時間が勤務時間外になる場合がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	42	2	家庭連絡票に園での様子を記載し保護者と書面での情報共有を行っている。クラスごとの保育日誌、個人ケース記録への記載を通じて振り返りを行うとともに、支援の検証・改善につなげている。記録は簡潔であっても、担任間や関係者間での口頭でのやりとり等も併せて行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	43	1	毎日登園クラスでは、年3回のモニタリングと年2回の支援計画の見直しを行っている。その他のクラスは、基本的に6か月に1回の見直しを行っている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	44	0	依頼があった場合は、会議内容によって担任・児童発達支援管理責任者・リハビリ担当者等の適切な職員が参画し、支援方法や各種情報の共有を行っている。併設している相談支援室もずとは、密に連携を図ることが出来ている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	45	0	保健センター等の関係機関と常に連携を行っている。保育所等訪問支援事業・障害児等療育支援事業・相談支援事業等を通じて、地域との連携を図っている。併設の診療所を通じて、医療機関との連携を行っている。在籍園等からのリハビリ等の見学も受け入れている。	

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	45	0	並行通園クラスを運営しており、週1日親子登園クラスでも地域のこども園等に在籍するこどもを受け入れている。並行通園のおひさまクラスでは在籍園訪問を実施しており、その他のクラスの並行利用児は保護者の同意のもと必要に応じて情報提供を行っている。移行に向けての相談援助を実施し、引継ぎ資料の作成・引継ぎ会議の実施等を行っている。退園後は必要に応じ保育所等訪問支援や診療所による診察・リハビリ等で支援している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	44	1	学校見学や体験を職員が同行するなど支援している。また、教員等の見学を受け入れ、こどもの状況や支援内容の理解や共有を図っている。引継ぎ資料として、保護者の同意のもと個別支援計画を就学先に提供している。支援学校との引継ぎは、クラス担任と学校担任と対面で実施している。地域小学校との引継ぎは、保護者と学校との間で確認の上、希望があれば実施している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)		3	各事業所や関係機関対象に、施設見学会や施設支援、出前講座等の研修を実施している。児童発達支援事業所向けの交流会を実施し、スタッフ間の交流や専門スタッフからの研修を行っている。	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	40			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	43	1	専門機関から講師を招き、療育内容等に関しスーパーバイズを受けている。職員は、各種学会・研修会・公的機関が主催する研修等、計画的に外部研修に参加している。各種研修案内を職員室内に掲示したり、該当チームに回覧して周知している。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	38	2	R6年度からセンターとして自立支援協議会に参画しており、(仮)障害児相談支援部会準備会に参加していく予定である。	
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	37	8	コロナ禍以前は年に3回程度、近隣のこども園と交流保育を実施していた。R5年度から再開したが、交流先の体制が整わず実施直前に中止の申し入れがあった。R6は実施予定である。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	44	1	家庭連絡票を通じて、日々の支援内容やこどもの状況を保護者と伝え合っている。送迎時や電話等でも保護者と話す機会を作っている。親子登園時やリハビリ場面で、こどもの発達状況や課題、保護者のニーズ等について共通理解を持てるよう取り組んでいる。必要に応じて面談や家庭訪問を実施している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	44	1	各クラスの集団特性も考慮しながら、家族支援プログラムの年間計画を作成し保護者に知らせている。外部からの保護者向け研修案内は園内に配架し、内容によっては該当クラスに配布している。内部の専門職種等による学習会や、外部講師による研修を開催し、一部はオンラインでも実施している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	45	0	新入園児に対しては、利用契約に関する説明会で重要事項説明書に基づき丁寧に説明を行っている。継続児に関しては、継続年度当初にあらためて説明を行っている。	

保 護 者 へ の 説 明 等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	45	0	支援計画の作成前に、アンケートにて保護者から保護者とこどものニーズや悩み等を聞き取っている。療育の中でこども自身の願いや思い・要求を丁寧に受け止め計画案に反映し、内容を保護者と確認し必要に応じて修正を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	45	0	児童発達支援管理責任者が支援内容を保護者に説明・確認を行い、同意を得ている。その後、個人懇談にて担任がより丁寧な説明・確認を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	45	0	定期的に個人懇談を実施している。併設の診療所での診察場面やリハビリ場面での対応も行っている。医療・健康・食事面、生活・発達面、進路や福祉サービス利用等、必要に応じて適切な職種が面談や助言・支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	38	7	保護者会活動の支援を行っている。参観日やクラス懇談会等で保護者交流の機会を設けている。卒退園されたこどもの保護者を交えた学習会を実施しており、先輩保護者と交流する機会となっている。運動会やお楽しみ会等、家族参加の園行事にきょうだいも参加しており、自然な交流が見られている。	保護者交流、きょうだい同士での交流の拡充を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	45	0	クラス担任、担当の児童発達支援管理責任者、専門職種主任、苦情解決責任者・苦情受付担当者等の多様な相談窓口を周知している。内容によっては関連職種でカンファレンスを行い、迅速かつ適切な対応に努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	43	2	毎月のクラスだよりや園だよりに加え、年2回の事業団だよりを発行している。事業団ホームページやフェイスブックにて、給食の写真や行事の様子等を発信している。令和6年度からICTも活用予定である。	事業団として発信内容やツールを整備しているが、より一層の活用を検討していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	45	0	職員研修にて個人情報保護の重要性を周知している。個人情報保護に関する報道やセンター内でのヒヤリハット報告を朝礼や会議等で共有し、注意喚起を行っている。ケースファイル等は施錠できる保管庫で管理し、個人情報を含む書類等の郵送や配布の際は間違いがないようダブルチェックの実施を徹底している。関係機関等への個人情報の提供、事業団ホームページやフェイスブック等での園児の写真掲載等、保護者との間で文書にて同意を得ている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	45	0	写真・イラスト・文字・身振り等の視覚的手段を活用している。書き言葉や話し言葉は、わかりやすい表現や言葉を使用している。必要に応じて、個別に丁寧な説明を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	24	21	こどもの発達が気になっている地域の親子が参加できる園庭開放、土曜日に開催する土曜日クラブ・にじいろクラブを実施している。感染症対策等の理由により、行事等に地域住民を招待することは出来ていないが、地域のボランティアを受け入れる体制は整えている。	

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	44	0	各種マニュアルを策定しており、随時見直しも行っている。緊急時対応の訓練も実施しながら知識や緊急時の対応方法を職員に周知している。必要な場所に必要のマニュアル(フローチャート)を掲示している。保護者には重要事項説明の中で策定については知らせており、一部マニュアルについては事業団ホームページにて公開している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	44	1	事業継続計画を策定している。感染症対策については、定期的にマニュアルの確認を実施している。非常災害については、毎月の消火避難訓練に加え、地震避難訓練も実施している。消防署立ち会いの下で119番通報も含む消火避難訓練を実施しており、助言指導を受けている。災害時の安否確認ツールとして職員・保護者に災害用伝言版(Web171)及び災害用伝言ダイヤル(171)の利用方法を周知しており、職員・保護者が実際に体験できる機会を年に1回設けている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	44	1	併設の診療所による入園前検診で、こどもの状況について確認・把握している。診療所を通じて主治医との連携、情報共有が行われている。発作等の緊急時対応も含め、関わる職員全体で共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	45	0	主治医の指示書に基づき除去食を提供している。管理栄養士が個別の献立表を作成し、保護者と除去食の内容を確認し了承を得ている。配膳間違いや誤食がないように食器・食札の色を変えており、複数の職員で確認を行い事故防止に努めている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	42	1	安全計画を作成し周知している。重大事故防止対策・災害対策・感染症対策・不審者対策等、安全管理に必要な研修や訓練を実施している。園外保育やプール等の行事の際は、注意点や緊急時の対応等の確認を会議で行い関わる職員に周知している。日々の安全点検に加え、毎月の安全点検を実施し危険な場所等があれば修繕や撤去等の対策を速やかに行っている。	安全管理に必要な研修・訓練は実施しているが、安全計画と結びついていない職員もおり再度周知を行っていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	40	2	安全点検や訓練の実施について重要事項説明書で説明している。「入園のしおり」で周知するとともに事業団ホームページから閲覧できるようにもしている。緊急時の保護者への連絡手段として、メール連絡を整備しており緊急時に使用している。R6年度からは、ICT(コドモン)を導入し活用している。災害用伝言ダイヤル(171)及びWeb171の利用体験の機会を設けている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	45	0	ヒヤリハットや怪我・事故発生は、毎朝の全体ミーティングで速やかに口頭報告し、原因や対策を共有している。口頭報告に加え報告書を作成し全職員で回覧し情報共有を図っている。毎月の集計や分析を行い、関連する職種間でタイムリーな確認と共有を行うことで再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	45	0	虐待防止委員会を設置しており、必要な情報の共有を行っている。園長による職員研修及び研修動画視聴による職員研修を実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	44	1	虐待防止委員会で身体拘束適正化に向けた対応確認を行っている。事前に十分に説明を行い了承を得た上で児童発達支援計画への記載や同意書を得ている。	